

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

4

マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



McLaren
Manufactured under licence from
McLaren Racing Limited.

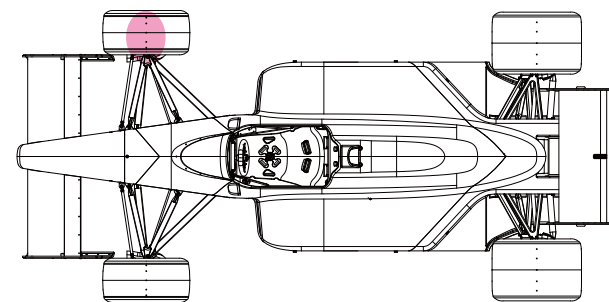
HONDA
Official Licensed Product

KYOSHO
THE FINEST RADIO CONTROL MODELS

DeAgostini
COLLECTIBLES

Mission 11 右のフロントアップライトを組み立てる

今号は、8号で組み立てたフロントアップライト(左)と同様の作業をして、フロントアップライト(右)を組み立てる。組み立てたフロントアップライト(右)には、次号でブレーキディスクとブレーキキャリパーを取り付けて、車体右側のフロントブレーキをつくっていく。



今号のパーツ

① サスアームジョイント(右前)



② フロントブレーキダクト(右)



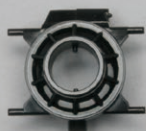
③ フロントアクスル メタル製



④ フロントホイールハブ



⑤ フロントアップライト(右上)



⑥ フロントブレーキハブ



⑦ フロントアップライト(右下)



⑧ ビスE (2.0×6P-M SiL)×2



※ビスは予備1本を含む。

※①②④～⑦はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー (0番)
- ・カッター ・カッティングマット
- ・割り箸

ポイント

精密ドライバーの使い方

●10号で、あると便利な道具として紹介した精密ドライバーは、根もとを手のひらで押しつけながら軸を回転させて使う。今号の組み立てでも精密ドライバーのプラスドライバー(0番)を使うと、ビスの頭を傷つけにくく作業がしやすい。



ディテールアップ

フロントアクスルのスミ入れ

●9号で紹介した左側と同様に、右のフロントアップライトのフロントアクスル先端(赤矢印)にスミ入れすることでディテールアップできる。フロントアクスルのスミ入れは、今号の組み立て作業後に行うとよい。



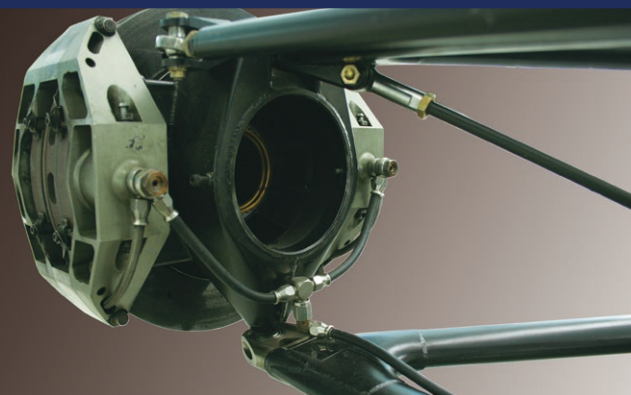
スミ入れ後

※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

本モデルのフロントアップライトは、外側だけでなく内側の形状やカラーリングも実車を再現している。フロントアップライトに装着されるブレーキ関連のパーツやサスペンションのアーム類なども、1：8というビッグスケールのメリットをいかして精巧につくられている。

◀MP4/4の右側のフロントアップライト内側。

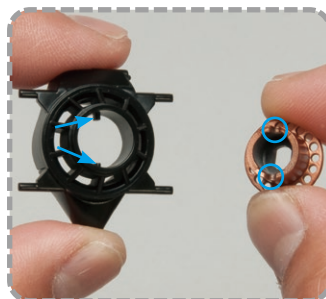
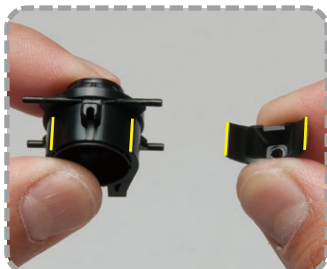
In Focus



1 フロントアップライト (右上) と フロントアップライト (右下)、 フロントブレーキハブの接着準備

《仮組み》

⑤ フロントアップライト (右上) の黄線で示した段差に ⑦ フロントアップライト (右下) の黄線で示した部分を写真のように組み合わせる。

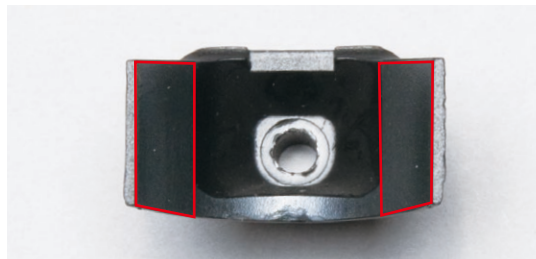


青矢印で示した突起と青丸で示した溝が組み合うように、フロントアップライト (右上) に ⑥ フロントブレーキハブを差し込む。



■ フロントブレーキハブがしっかりと奥まで差し込まれていることを確認する。

● フロントアップライト (右下) 内側の両端から段差までの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。塗装も下の素材面も黒いのでわかりにくい、はがした部分は光の反射具合で見分けられる。

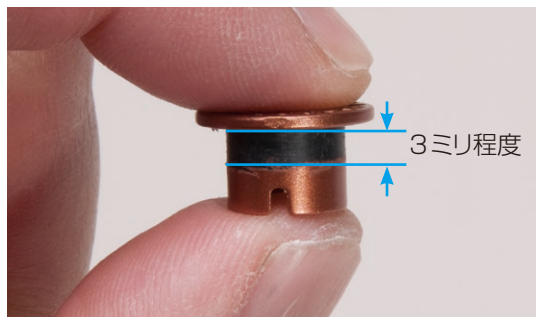


■ 素材面を深く傷つけないように注意する。

● フロントアップライト (右上) の黄線で囲んだ部分 (5ミリ幅程度) の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。このパーツも塗装と素材面の両方が黒いので、素材面を深く傷つけないように注意する。



● フロントブレーキハブの円筒の青線で示した部分全周 (3ミリ幅程度) の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



2 フロントアップライト (右上) と フロントアップライト (右下)、 フロントブレーキハブを接着する

● フロントアップライト (右上) の塗装をはがした部分のうち、黄色で示した2ミリ幅程度だけにプラモデル (スチロール樹脂) 用接着剤を塗る。仮組みしたようにフロントアップライト (右下) と組み合わせて指で2~3分おさえ、フロントアップライト (右) をつくる。



■ パーツ同士がずれないようにしばらくおさえる。

● フロントアップライト (右) の黄色で示した円筒の内壁部分 (2ミリ幅程度) 全周にプラモデル (スチロール樹脂) 用接着剤を塗る。内壁以外の部分には接着剤を塗らないように注意する。



■ 接着剤は円筒の内壁全周に塗る。

- 仮組みしたようにフロントアップライト(右)とフロントブレーキハブを組み合わせて、指で2~3分おさえてから、完全に接着するまで1時間ほどおく。



■フロントアップライト(右下)に力をかけないよう注意する。

Check



▲フロントアップライト(右)完成時イメージ

タイヤ装着イメージ▼



■完成時にタイヤを装着するフロントアクスルを正しく取り付けるため、フロントアップライトとフロントブレーキハブが正確に接着されていることを確認しよう。

3

フロントアップライト(右)にフロントホイールハブとフロントアクスルを取り付ける

- フロントアップライト(右)の青丸で示した穴に④フロントホイールハブの青矢印で示した突起を差し込んで、写真のように組み合わせる。フロントホイールハブの赤丸で示した穴には次の工程で⑤フロントアクスルが差し込まれるので確認しておく。



■差し込んだあとでもフロントホイールハブは少し動く。

- フロントホイールハブを組み合わせたまま、フロントアップライト(右)の青丸の穴に、フロントアクスルの青矢印の突起を黄矢印で示した根もとまで差し込む。このとき、フロントホイールハブの穴(前の工程で確認した赤丸の穴)にもフロントアクスルが差し込まれる。



■フロントホイールハブとフロントアクスルでフロントアップライトをはさみ込む。

- フロントアクスルがフロントホイールハブに差し込みにくい場合は、フロントアクスルを指で持ち、写真のようにフロントホイールハブを割り箸で押し込む。



■フロントアクスルが、しっかりと差し込まれていることを確認する。

- フロントホイールハブの赤丸で示した穴に⑥ビスEを差し、プラスドライバー(0番)で締め込んで固定する。



■締め込み過ぎてフロントホイールハブにビスがめり込まないように注意する。

今号の完成

フロントアップライト(右上)、フロントアップライト(右下)、フロントブレーキハブ、フロントホイールハブ、フロントアクスルが1つになって、フロントアップライト(右)が組み立てられた。



保管パーツ

①サスアームジョイント(右前)と②フロントブレーキダクト(右)は、後の号でフロントアップライト(右)に取り付ける。これらは保管用の袋に入れ、「フロント(右)」と車体への取り付け位置を明記しておこう。



保管例



※車体への取り付け位置を明記しておくこと、似たパーツと区別がしやすい。

PIT IN

フロントアップライトについて

フロントアップライトは前輪の基礎

今号で組み立てた右のフロントアップライトは、左と同様に次号でブレーキキャリアとブレーキディスクが取り付けられてフロントブレーキになる。

そうしてできあがった2つのフロントブレーキに、後の号でさらにブレーキホースやフロントブレーキダクトといったブレーキ関連パーツが装着される。

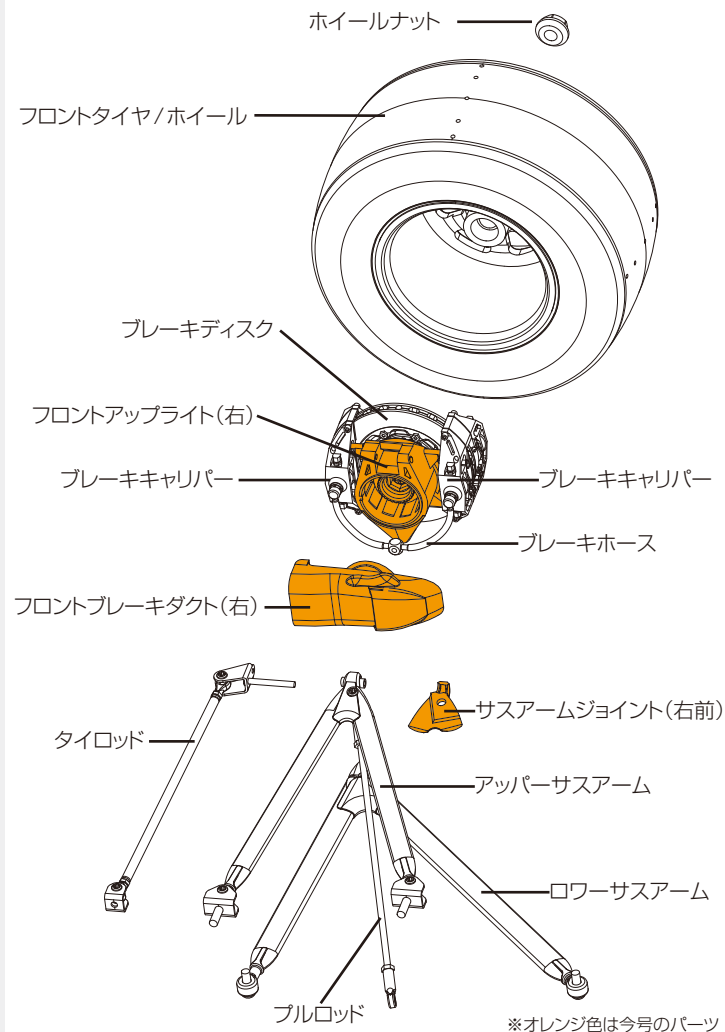
フロントブレーキにはその後アッパーとローワーのサスアーム、フロントサスペンションに接続されるブルロッド、前輪の舵を切るためのタイロッドといったサスペンション関連、ステアリング関連のパーツが取り付けられ、完成時にはフロントホイールが装着される。

フロントアップライトは前輪に装着されるパーツの基礎となる重要な部分だ。

※右のイラストはモデルのパーツ構成なので実車とは異なる部分がある。

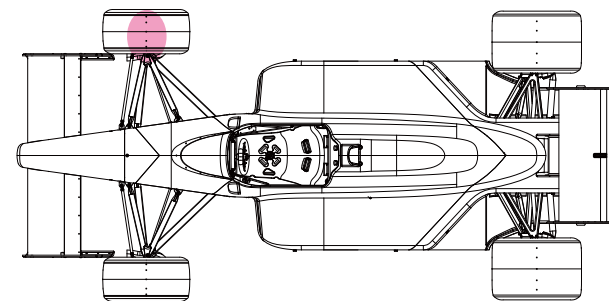


フロントアップライト周辺の主なパーツ



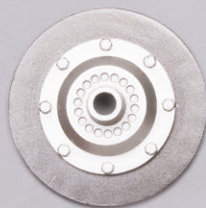
Mission 12 右のフロントブレーキを組み立てる

今号は、9号で組み立てたフロントブレーキ(左)と同様の作業をして、右のフロントブレーキを組み立てる。まずブレーキディスクを1つと、ブレーキキャリパーを2つ組み立ててから、前号で組み立ててあるフロントアップライト(右)に取り付けていく。



今号のパーツ

① ブレーキディスク(外)



② ブレーキディスク(内)



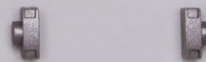
③ ブレーキキャリパー(内) × 2



④ ブレーキキャリパー(外) × 2



⑤ ブレーキパッド × 4



※全てHIPS(スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・マスキングテープ
- ・ピンセット
- ・コピー用紙程度の厚さの紙(1枚)

用意するもの

- ・フロントアップライト(右) ※11号で組み立て

ディテールアップ

ブレーキディスクのスミ入れ

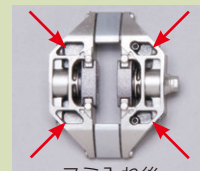
●ブレーキディスクは、青丸の内側に円状に並ぶ丸い凹みにスミ入れすることでディテールアップできる。ブレーキディスクのスミ入れは、今号のステップ1の作業後に行う。



スミ入れ後

ブレーキキャリパーのスミ入れ

●2つのブレーキキャリパーは、赤矢印で示した凹みに影を強調する程度に薄くスミ入れをする。ブレーキキャリパーのスミ入れは、今号のステップ2の作業後に行うとよい。



スミ入れ後

※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

本モデルのブレーキキャリパーは、軽量化のために肉抜きされた形状のほか、ブレーキキャリパー本体やブレーキパッドのカラーリングも実車のディテールを再現している。これらブレーキキャリパーには後の号でブレーキホースが装着されて、細部がさらに再現されていく。

◀MP4/4の右のフロントブレーキ周辺。写真のフロントアクスルにはホイールナットと保護キャップ(本モデルでは保護キャップは提供されない)が付けられている。

In Focus

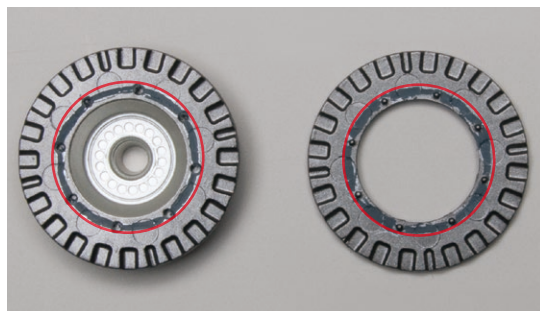


1

ブレーキディスクを組み立てる

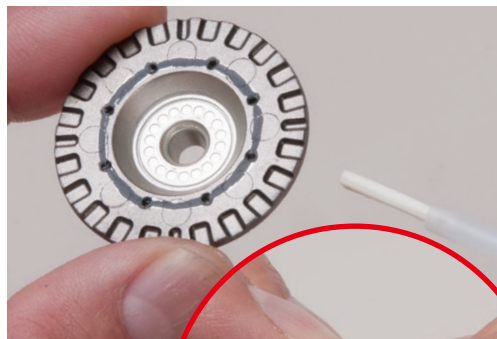
※3号を参考に、仮組みしてから作業しよう。

● ①ブレーキディスク(外)と②ブレーキディスク(内)の8つの突起や穴を結ぶ円周部分(赤丸)の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。突起や穴の中の塗装ははがさなくてよい。



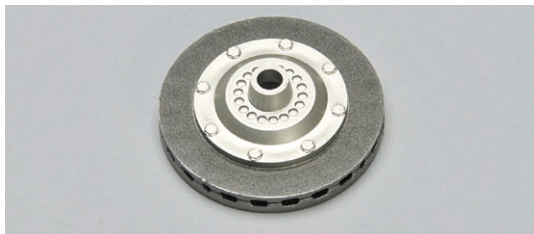
■ 接着面には塗装のかすを残さないようにする。

● ブレーキディスク(外)の8つの穴と塗装をはがした円周部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキディスク(内)と組み合わせて指で2~3分おさえる。



■ 側面の穴の形状が整っていることを確認する。

● 完全に接着するまで1時間ほどおく。



2

ブレーキキャリアを組み立てる

※3号を参考に、仮組みしてから作業しよう。

● ③ブレーキキャリア(内)×2と④ブレーキキャリア(外)×2の青丸で示した部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



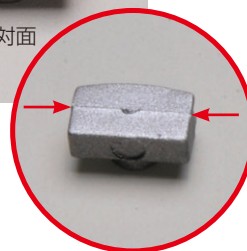
● ⑤ブレーキパッド×4は青丸で示した突起の面とその反対側の全面の塗装をカッターの刃のない部分で写真のようにはがす。



突起の面

反対面

■ 突起の面の反対面にあるパーティングライン(赤矢印で示した、パーツに残る金型の合わせ目)は、塗装をはがす際に削って滑らかにする。

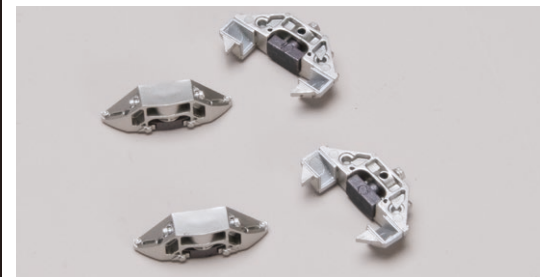


● 1つのブレーキキャリア(外)の塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキパッドと組み合わせて指で2~3分おさえる。

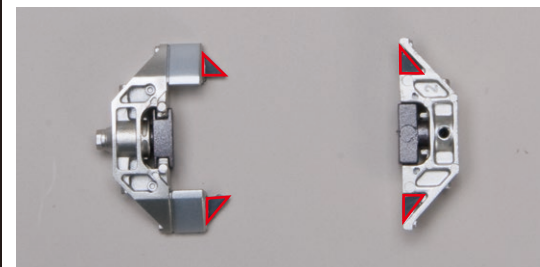


■ ブレーキパッドがずれないように注意しておさえる。

● 同様の作業をしてもう1つのブレーキキャリア(外)と2つのブレーキキャリア(内)にブレーキパッドを取り付け、完全に接着するまで1時間ほどおく。



● ブレーキキャリア(内)×2とブレーキキャリア(外)×2の、赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



- 1つのブレーキキャリパー(外)の塗装をはがした部分に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキキャリパー(内)と組み合わせて指で2~3分おさえる。



■ 塗装をはがした部分以外に接着剤がはみ出さないように注意する。

- 同様の作業をしてもう1つのブレーキキャリパー(外)とブレーキキャリパー(内)も接着し、完全に接着するまでそれぞれ1時間ほどおく。



Check

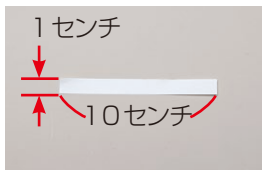


- アップライトに取り付ける前に、内と外のブレーキキャリパーが正しく接着されていることを確認しておこう。

3

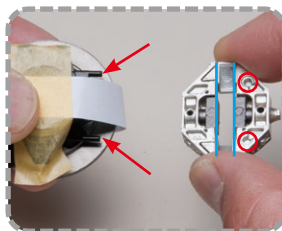
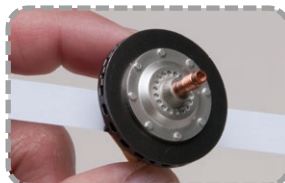
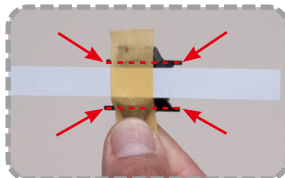
フロントアップライト(右)とブレーキキャリパーの接着準備

- 11号で組み立てたフロントアップライト(右)、1×10センチに切った紙と4センチと6センチ程度のマスキングテープを1本ずつ用意する。

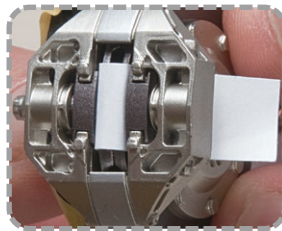


《仮組み》

フロントアップライト(右)の赤矢印で示した突起を結ぶ2本の赤点線の内側中央に、用意した紙を4センチのマスキングテープで写真のように固定する。次にブレーキディスクをフロントアクスルに差し込んで組み合わせる。



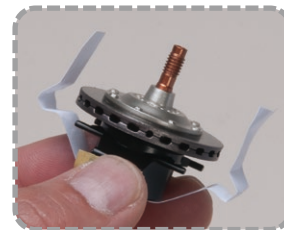
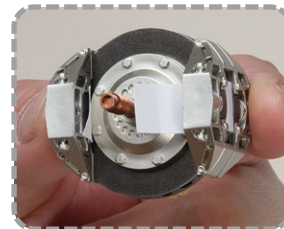
紙を軽く曲げてブレーキディスクにかぶせる。ブレーキキャリパーの赤丸の穴にフロントアップライト(右)の赤矢印で示した片側2つの突起を入れ、青線で示した部分にブレーキディスクを紙ごととはめ込む。紙が突っ張って破れないように注意する。



- 紙をはさみ組み合わせることで、ブレーキディスクとブレーキパッドの間に適度なすき間ができる。

《仮組み》

前の工程と同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパーもフロントアップライト(右)に仮組みする。その後ブレーキキャリパーを2つとも取り外し、紙がブレーキディスクに沿うような形になっていることを確認する。

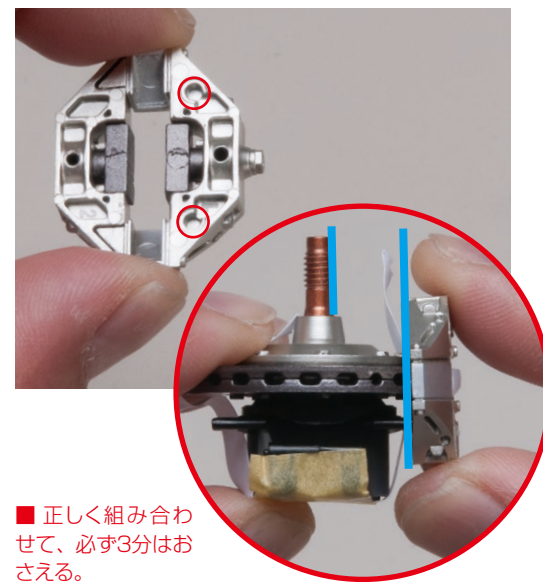


- ブレーキディスクと紙は取り付けたままにする。

4

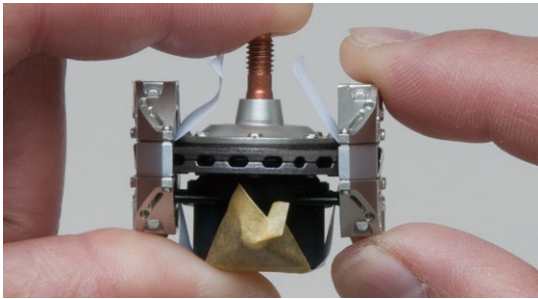
フロントアップライト(右)とブレーキキャリパーを接着する

- ブレーキキャリパーの赤丸で示した穴の中に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。仮組みしたようにフロントアップライト(右)と組み合わせ、青線で示した部分を平行にしながら少なくとも3分は指でしっかりとおさえる。



- 正しく組み合わせて、必ず3分はおさえる。

- 前の工程と同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパーもフロントアップライト(右)に接着する。



- 必ず3分は指でおさえる。

Check



▲完成時イメージ

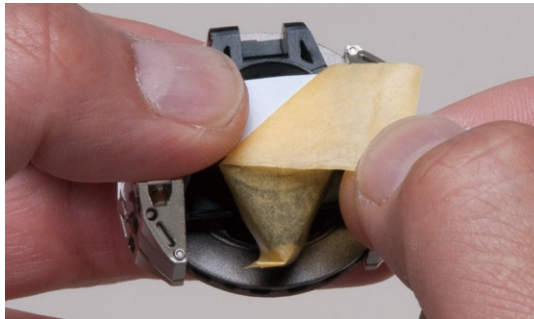
- 次の工程でマスキングテープを使って固定する前に、フロントアップライト(右)とブレーキキャリパーが正しく取り付けられていることを確認しておこう。

- 用意した6センチのマスキングテープで2つのブレーキキャリパーとフロントアップライト(右)を写真のように固定し、完全に接着するまで1時間ほどおく。

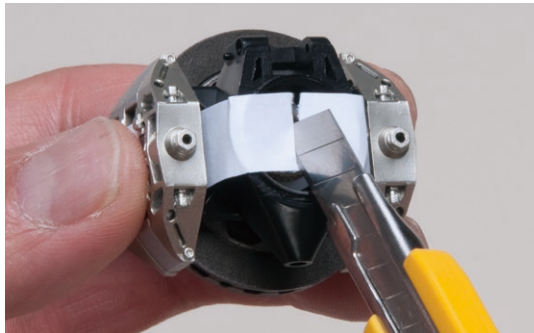


- マスキングテープは軽く固定する程度でよい。

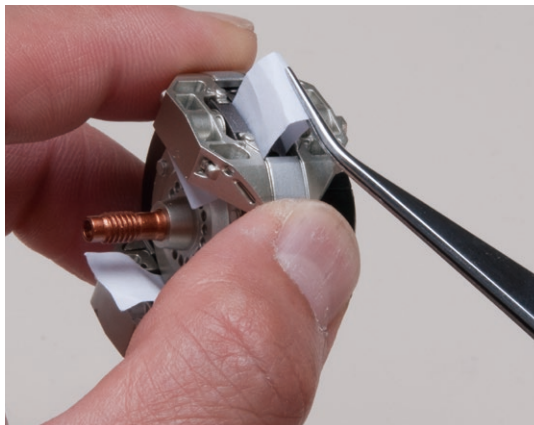
- 完全に接着したら、紙が動かないようにしながら、まずマスキングテープだけをはがす。



- パーツに傷をつけないように注意しながら、カッターを使って紙を中心部分で2分割する。



- 2枚になった紙をブレーキディスクの部分からピンセットでそれぞれ抜き取る。



今号の完成

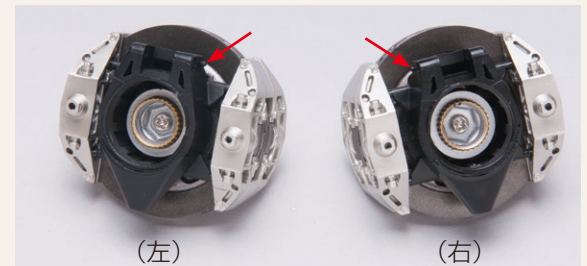
今号で組み立てたブレーキディスクとブレーキキャリパーがフロントアップライト(右)に取り付けられて、フロントブレーキ(右)が組み立てられた。



ポイント

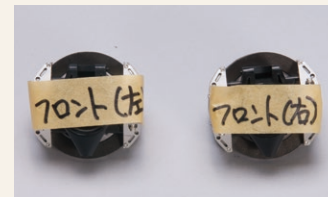
フロントブレーキは左右を区別しておく

● 今号で組み立てたフロントブレーキ(右)と9号で組み立てたフロントブレーキ(左)は、赤矢印で示した突起の位置で左右を区別する。写真を参考に左右を確認し、車体への取り付け位置を明記したマスキングテープを貼って保管するとよい。



(左)

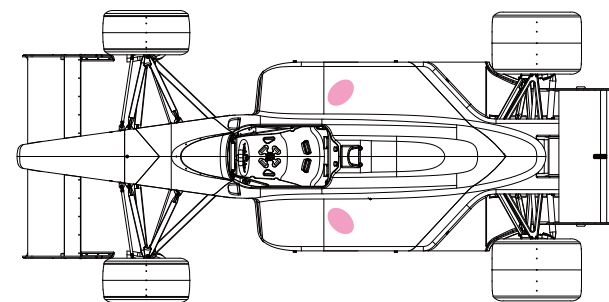
(右)



※ マスキングテープは軽く巻きつける程度でよい。

Mission 13 サイドポンツーンユニットを組み立てる

今号は、サイドポンツーン周辺のディテールを再現したパーツを組み立てる。まずサイドポンツーンユニットA～Cをサイドポンツーンユニットベースに取り付けて1つのサイドポンツーンユニットをつくる。そしてバッテリーにラインラベルを貼って、後の号でサイドポンツーンに取り付ける準備をする。



今号のパーツ

① ラジエーターホース(左上)



② ラジエーターホース(右上)



③ ラジエーターホース(左下)



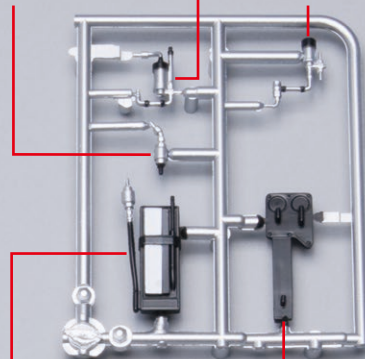
④ ラジエーターホース(右下)



⑨ サイドポンツーンユニットA

⑩ サイドポンツーンユニットB

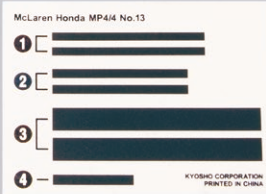
⑪ サイドポンツーンユニットC



⑫ バッテリー

⑬ サイドポンツーンユニットベース

⑭ ラインラベルA



※①～⑬はHIPS(スチロール樹脂)製

⑤ サイドポンツーンステム(左)



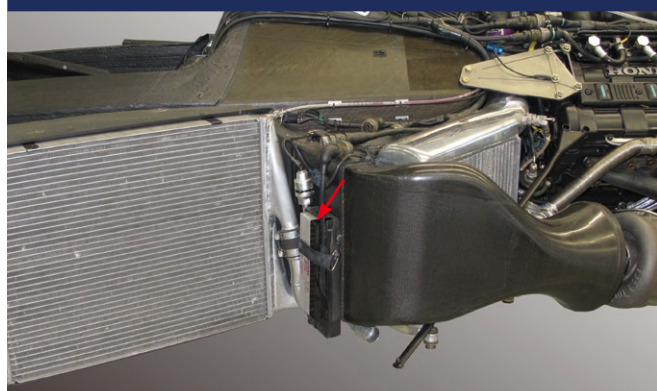
⑥ サイドポンツーンステム(右)



⑦ インタークーラーユニットA(左)



⑧ インタークーラーユニットA(右)



本モデルでは、左右のサイドポンツーン周辺に装着される小さなパーツが、1:8という大きなスケールのメリットを活かして再現されている。今号で組み立てるサイドポンツーンユニットとバッテリーも、後の号で配線や配管を再現したパーツが装着されて、さらに実車に近づいていく。

◀MP4/4の左のサイドポンツーン周辺。赤矢印で示したパーツがバッテリーだ。

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・ピンセット
- ・定規

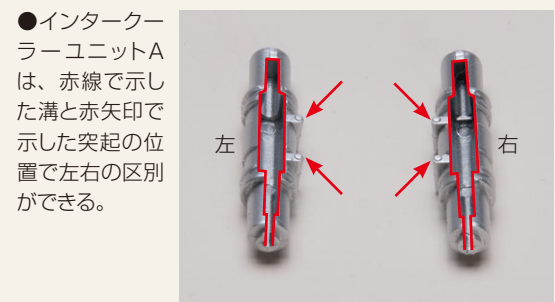
ポイント

サイドポンツーンシステムの左右を確認する



●サイドポンツーンシステムは、写真のように並べると、切り欠きの位置で左右の区別ができる。

インタークーラーユニットAの左右を確認する

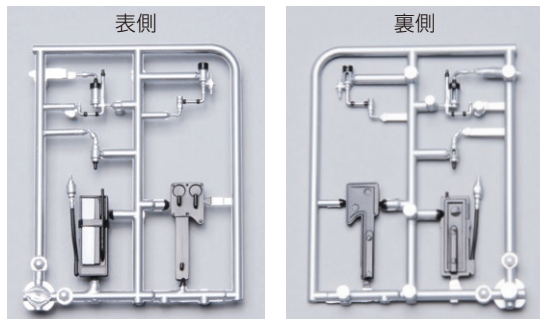


●インタークーラーユニットAは、赤線で示した溝と赤矢印で示した突起の位置で左右の区別ができる。

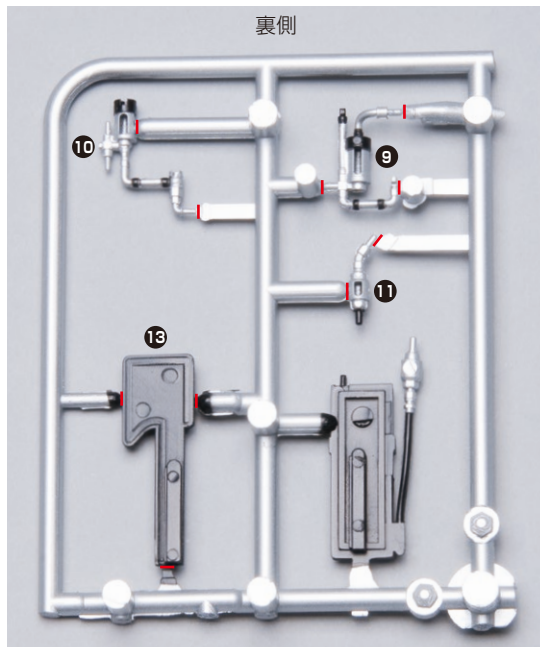
1 サイドポンツーンユニットベースに サイドポンツーンユニットA~Cを接着する

※細い部分の破損を防ぐため、仮組みはしない。

● 写真を参考に、ランナーパーツの表裏を確認する。

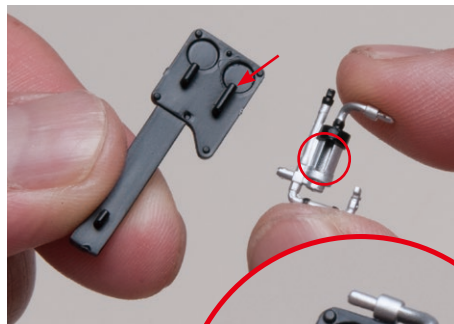


● ランナーパーツを裏向きに置く。赤線部分をカッターで切って⑨~⑪サイドポンツーンユニットA~Cと⑬サイドポンツーンユニットベースをランナーから切り離す。



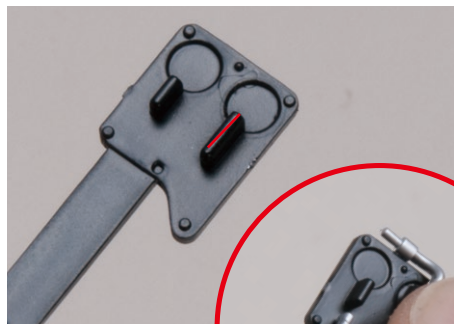
■ パーツを傷つけないよう慎重に作業する。

● サイドポンツーンユニットベースの赤矢印で示した突起に、サイドポンツーンユニットAの赤丸で示した穴を写真の向きではめ込むので確認しておく。



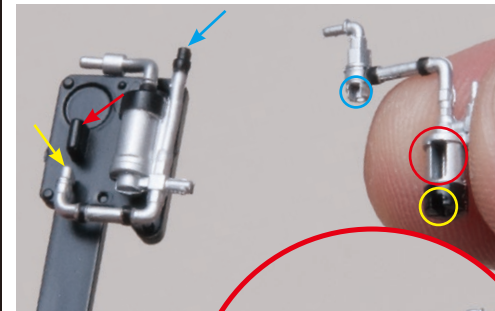
■ 仮組みせず、取り付ける向きを覚えておく。

● サイドポンツーンユニットベースの赤線で示した突起の先端部分だけにプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、確認したようにサイドポンツーンユニットAを組み合わせて指で2~3分おさえる。



■ 細い部分には触れないようにおさえる。

● サイドポンツーンユニットBは、赤丸で示した穴をサイドポンツーンユニットベースの赤矢印で示した突起にはめ込み、黄丸と青丸で示した切り欠きとサイドポンツーンユニットAの黄矢印と青矢印で示した部分を組み合わせるので確認しておく。



■ 仮組みせず、取り付ける向きを覚えておく。

● サイドポンツーンユニットベースの赤線で示した突起の先端部分だけにプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、確認したようにサイドポンツーンユニットBを組み合わせて指で2~3分おさえる。



■ 切り欠き部分は接着せず、組み合わせるだけでよい。

● サイドポンツーンユニットベースの赤矢印で示した突起に、サイドポンツーンユニットCの赤丸で示した穴を写真の向きではめ込むので確認しておく。



■ 仮組みせず、取り付ける向きを覚えておく。



● サイドポンツーンユニットベースの赤線で示した突起の先端部分だけにプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、確認したようにサイドポンツーンユニットCを組み合わせて指で2~3分おさえる。



■ 細い部分を傷つけないように注意しておさえる。



● それぞれが完全に接着するまで1時間ほどおく。



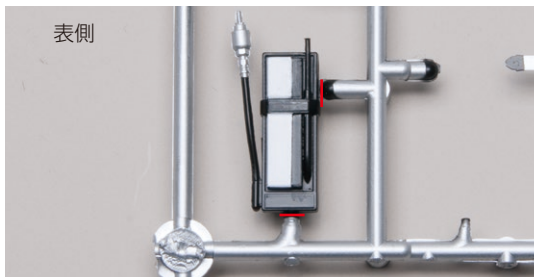
Check



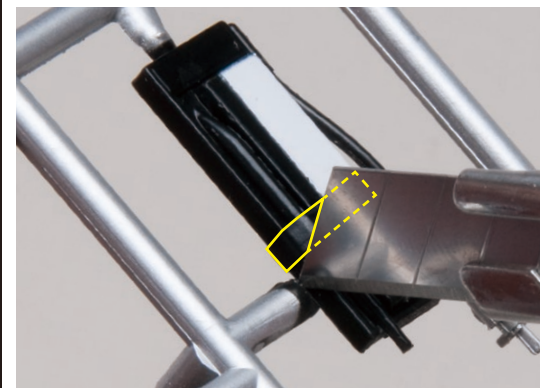
■ サイドポンツーンユニット(白矢印)は右のサイドポンツーンに装着される。モデル完成後も鑑賞できるパーツなので、細い部分の破損や接着剤のみ出しに注意して作業しよう。

2 バッテリーにラインラベルAを貼る

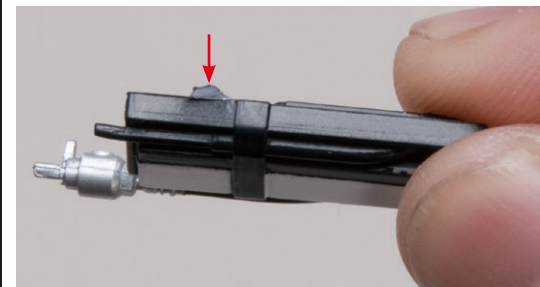
● ランナーパーツを表向きに置く。⑩バッテリーを赤線部分でランナーから切り離すので確認する。



● 黄線で囲んだ帯状の部分は傷つけないように注意しながら、前の工程で確認した赤線部分をカッターで切り離す。



● 赤矢印で示したようなゲート(パーツとランナーの接続部分)が残った場合は、カッターで削って綺麗に整える。

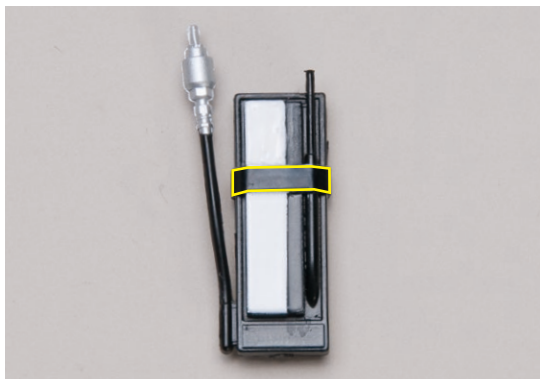


Check



■ バッテリー(白矢印)は左のサイドポンツーンに装着される。装着時に邪魔になるゲートの残りは綺麗に取り除いておこう。

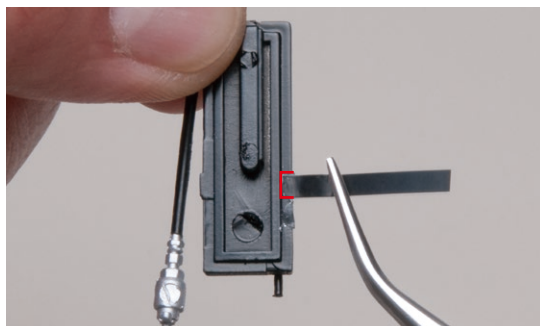
● バッテリーの黄線で囲んだ帯状の部分に⑭ラインラベルAを貼るので確認しておく。



● 台紙は残すようにしながら、ラインラベルAの4番の黒いライン部分だけをカッターと定規を使って切り抜く。



● 赤線で示した部分(パーツを切り離すときに注意した帯状部分の裏側)が起点となるので、ピンセットを使ってラインラベルの片端を貼る。



● ラインラベルをはさむピンセットの位置をずらしながら、帯状部分に巻きつけるようにラインラベルを貼る。貼ったラインラベルは上からこすると傷がつくことがあるので注意する。



■ 赤線で示したケーブルとバッテリー本体の間を通してラインラベルを貼る。

● ラインラベルがバッテリーに完全に貼り付くまでしばらくおく。完全に貼り付いてできあがったあとも、ラインラベルやケーブルを傷つけないようにバッテリーの取り扱いには注意する。



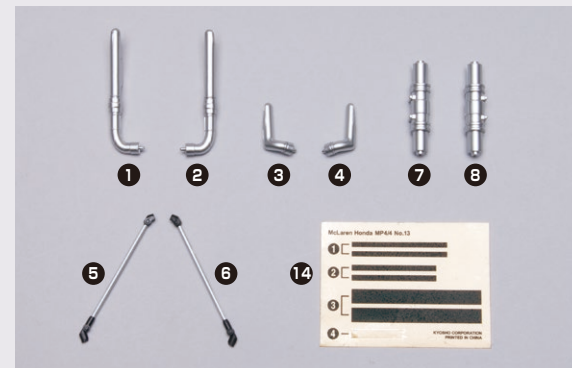
今号の完成

サイドポンツーンユニットベースにサイドポンツーンユニットA～Cが取り付けられてサイドポンツーンユニットが1つになり、バッテリーにラインラベルAが貼られた。



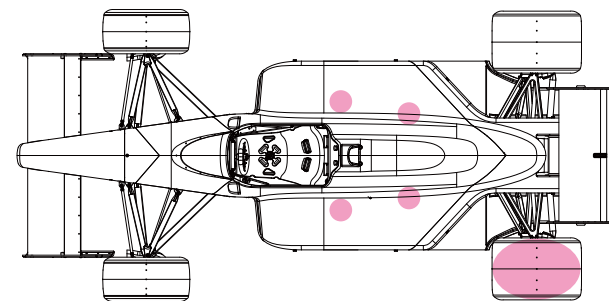
保管パーツ

①ラジエターホース(左上)と②ラジエターホース(右上)、③ラジエターホース(左下)と④ラジエターホース(右下)、⑤サイドポンツーンシステム(左)と⑥サイドポンツーンシステム(右)、⑦インタークーラーユニットA(左)と⑧インタークーラーユニットA(右)は左右の区別をつけて保管するとよい。残った⑭ラインラベルAは、1～3番のラベル面に傷がつかないように注意して保管しよう。



Mission 14 リアタイヤを組み立てる

今号は、まずリアタイヤにリアホイールを取り付ける。次に9号で組み立てたフロントブレーキ(左)のフロントアクスルを使って、ホイールナットの内側にネジ山を切る。最後に前号で提供した4本のラジエーターホースと2本のインタークーラーユニットAにラインラベルを貼る。



今号のパーツ



① リアホイール ダイキャスト製



② ホイールナット×5 ABS製

※ホイールナットは予備1個を含む

今号で使用する道具

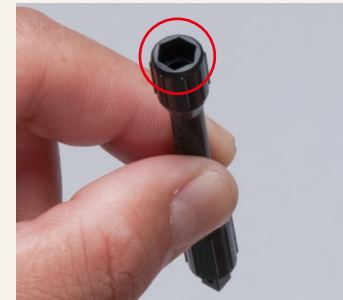
- ・ プラスドライバー (00番) ※2号で提供
- ・ カッター
- ・ カッティングマット
- ・ ピンセット
- ・ 定規

用意するもの

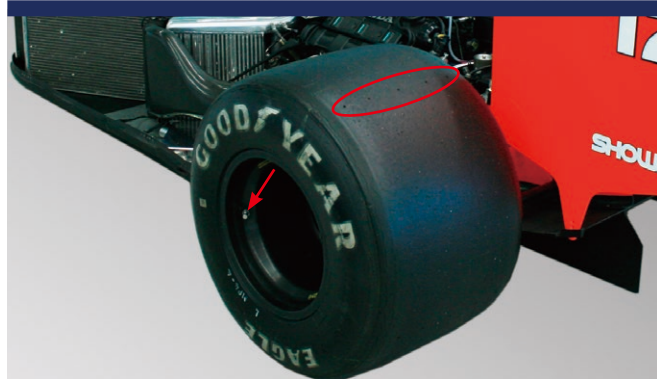
- ・ リアタイヤ ※3号で提供
- ・ フロントブレーキ(左) ※9号で組み立て
- ・ ラジエーターホース(左上、右上) ※13号で提供
- ・ ラジエーターホース(左下、右下) ※13号で提供
- ・ インタークーラーユニットA(左、右) ※13号で提供
- ・ ラインラベルA ※13号で提供

ポイント

ホイールレンチについて



●2号で提供したプラスドライバー(00番)は、ハンドル部分の片側(赤丸)がホイールレンチになっている。



本モデルのリアタイヤは、スリップサインとなる小さな凹みやステンシルを使って塗られたサイドウォールのロゴなどが再現されている。またリアホイールはダイキャスト素材で金属の質感を表現。後の号でエアバルブが取り付けられて、実車のホイールに近づいていく。

◀MP4/4の左のリアタイヤ周辺。赤丸で囲んだ部分にある5つの小さな凹みがスリップサイン、赤矢印で示したパーツがエアバルブだ。

In Focus

1 リアタイヤに リアホイールを取り付ける

● 3号で提供したリアタイヤを用意する。



● リアタイヤに①リアホイールを取り付ける位置を確認する。リアホイールの赤丸部分にある小さな凹みをリアタイヤの「EAGLE」ロゴのGの中心(赤線)に合わせてはめ込む。



● リアタイヤにリアホイールを差し込み、リアホイール両側にある赤線で示した溝にリアタイヤの内周部をはめ込む。



■ 反対側の溝にもリアタイヤの内周部をはめ込む。

● リアタイヤがリアホイール両側の溝にしっかりとめ込まれていることを確認する。



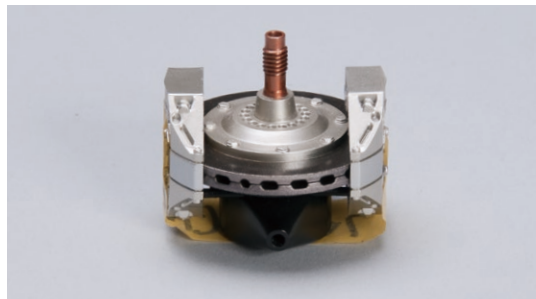
Check



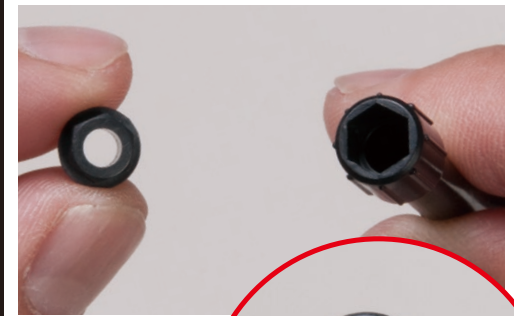
■ 「EAGLE」ロゴのGの中心に合わせた小さな凹みには、後の号でエアバルブを取り付ける。凹みの位置合わせは正しく行おう。

2 ホイールナットにねじ山を切る

● 9号で組み立てたフロントブレーキ(左)を用意する。

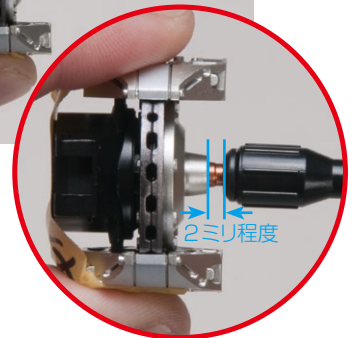
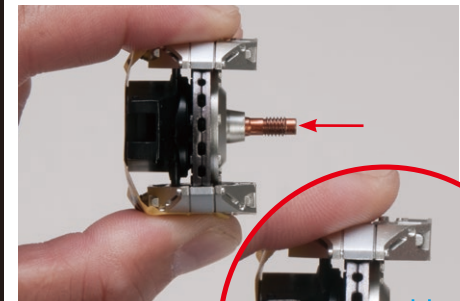


● ホイールレンチの六角形の穴に、形状を合わせてeホイールナットを1個はめ込む。



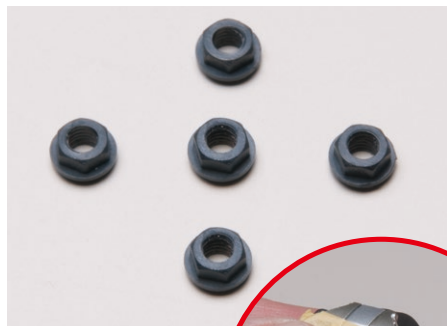
■ ホイールレンチの穴にホイールナットがしっかりとめ込まれていることを確認する。

● ホイールレンチにはめ込まれたホイールナットをフロントブレーキ(左)の赤矢印で示したフロントアクスルにまっすぐ差し込み、時計回りに押し回してねじ山を切っていく。青線で示した部分が2ミリ程度になるまでねじ込んだら、反対に回してホイールナットを取り外す。



■ 作業時に力を入れ過ぎて、それぞれのパーツを壊さないように注意する。

● 前の工程と同様の作業をして、予備を含めて全てのホイールナットにねじ山を切る。作業を終えたらティッシュペーパーなどでフロントアクスルを拭いて綺麗にしておく。



■ 必要なホイールナットは4個だが、予備の1個にもねじ山を切っておく。



3

ラジエーターホース(左上、右上、左下、右下)とインタークーラーユニットA(左、右)にラインラベルAを貼る

● 13号で保管した、ラジエーターホース(左上)、ラジエーターホース(右上)、ラジエーターホース(左下)、ラジエーターホース(右下)、インタークーラーユニットA(左)、インタークーラーユニットA(右)とラインラベルAを用意する。



● ラインラベルAは、台紙を残すようにしてそれぞれ黒いライン部分だけをカッターと定規を使って切り抜いていく。1度に全てを切り抜くのではなく、それぞれ貼る直前に切り抜くようにする。



● 1番のラインラベルを切り抜き、ラジエーターホース(左上)に貼っていく。赤線で示したパーティングライン(パーツに残る金型の合わせ目)を起点として、黄色の点線で囲んだ円周部分へ二重に巻きつけて貼る。



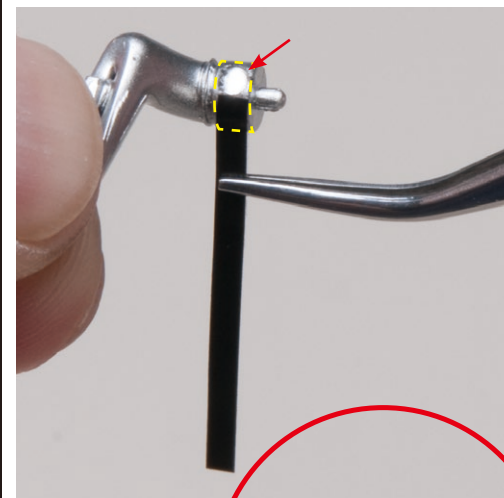
■ ラインラベルはピンセットを使って貼ろう。



● 前の工程と同様の作業をして、ラジエーターホース(右上)にも1番のラインラベルを貼る。



● 2番のラインラベルを切り抜き、ラジエーターホース(左下)に貼っていく。赤矢印で示した丸い凹みを起点にして、黄色の点線で囲んだ円周部分へ二重に巻きつけて貼る。



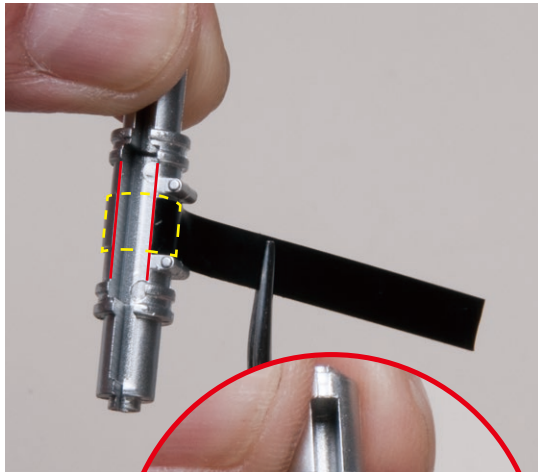
■ 丸い凹みを覆うようにして貼る。



- 前の工程と同様の作業をして、ラジエターホース(右下)にも2番のラインラベルを貼る。



- 3番のラインラベルを切り抜き、インタークーラーユニットA (左)に貼っていく。赤線で示した溝を起点に、黄色の点線で囲んだ円周部分へ二重に巻きつけて貼る。



- 溝の上から巻きつけて貼る。

- 前の工程と同様の作業をして、インタークーラーユニットA (右)にも3番のラインラベルを貼る。



今号の完成

リアタイヤにリアホイールが取り付けられ、ホイールナットにねじ山が切られた。そして4本のラジエターホースと2本のインタークーラーユニットAにラインラベルAが貼られた。



ナビゲーション

今号でねじ山を切ったホイールナットは、後の号で車体(前後ブレーキ部)にフロントタイヤとリアタイヤを装着する際に使用する。ホイールナットを使ったブレーキ部へのタイヤの取り付け方法を確認しておこう。

- 1 2号で組み立てたフロントタイヤを用意する。



- 2 フロントブレーキ(左)のフロントアクスル(赤矢印)に、フロントタイヤ裏側の赤丸で示した穴を差し込む。



- 3 ホイールナットの丸い面をフロントアクスルにはめ込み、指で1~2周だけ締める。



- 4 ホイールレンチを使って、フロントタイヤがガタつかない程度まで軽く締める。



- 5 フロントブレーキ(左)とフロントタイヤがホイールナットで固定された。